

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立太子橋小学校

令和8年3月

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

「いじめへの対応」については、各学年、学期に一回のいじめアンケートや心の天気の利用を適切に行うだけでなく、日頃から子ども理解に努め、子どもから発信されるわずかな心の変化を子どもの表情・行動・態度から看取るように共通理解してきた。子どもの安心安全な学校生活を最優先事項として取組を進めてきているので、学期ごとのいじめアンケートの結果については大きな問題なく進めることができている。しかし、相手を傷つけるような言葉遣いや自分の感情を抑えられずトラブルを起こしてしまう児童が少なからずいる現状である。「不登校への対応」については、各担任が対応するだけでなく特別支援学級担当や養護教諭など教職員全員で取組を進めるようにしている。また、スクールカウンセラーや子サポネット等とも連携して不登校児童及びその保護者を支援している。児童用パソコンの活用を図り、オンラインを通して授業参加できるよう工夫も行ってきた。その結果、不登校児童の在籍比率は減っているものの、一定数不登校状態の児童はいる。

「言語活動・理数教育の充実」及び「主体的・対話的で深い学び」については、研究教科の授業を中心に交流を取り入れ、目標に迫るコミュニケーションを目指し、学年の実態に応じた取組を進めてきた。その結果、有意義な話し合い活動により授業が活性化し、考えが広がったり深まったりする場面が増えている。多くの学年で経年調査の調査の標準化得点が100を上回るようになってきているが、さらなる思考力・判断力・表現力をつける授業改善が必要である。「英語教育の強化」については、低学年からのモジュールタイムでの取組やC-NETとのきめ細かい打ち合わせを通じた高学年での系統だった英語学習等で、子どもの英語力を付けてきた。「体力・運動能力向上についての取組」については、全国体力運動能力調査の数値を男女とも多くの種目で全国平均を上回る結果となっている。

「ICTを活用した教育」については、子どもたちの中でICT機器を使うことが日常化してきている。今後は、子どもたちが自分の考えを効果的に表現することができるような活用の仕方を考えていく必要があると考える。「働き方改革」については比較的定着しつつあり、本校の時間外勤務時間は大阪市の平均時間外勤務時間より少ない。今後も「ゆとりの日」の設定を増やしたり、専科制度の充実を行ったりして、さらなる働き方改革を進めていく必要がある。「教員の資質向上・人材の確保」については校内研修の充実を図ってきた。今後も若手教員が力をつけるような研修を積極的に計画して取組を進める。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合について、令和7年度末までの4年間の割合を平均して<70%>以上にする。
- 年度末の校内調査において、令和7年度末までの4年間の不登校児童在籍比率を平均して<5%>以下にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における平均正答率の標準化得点をすべての学年で毎年<98>以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合について、令和7年度末までの4年間の割合を平均して<70%>以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合について、令和7年度末までの4年間の割合を平均して<60%>以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の授業日において、学習者用端末を使用した日数(ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)を<100%>にする。
- 令和7年度、教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合(基準2)《学校園における働き方改革推進プランより》を<85%>以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を<78%>以上にする。

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を<50%>以上にする。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を<75%>以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50%以上にする。〔ただし事務局が定める学校行事等ICT活用に適さない日数を除く〕

○時間外勤務時間が30時間以下の人数を毎月15名以上にする。

○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、まん画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を14%以下にする。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の自己評価は【安全・安心な教育の推進】【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】の3項目ともBであった。【安全・安心な教育の推進】では目標値を大きく超えていたが、一部目標を達成できていない学年があった。。【未来を切り拓く学力・体力の向上】では、今年度から研究を始めた算数科を中心に各教科で話し合い活動を行うことができた。運動についてもすすんで運動に取り組む子どもが多かった。【学びを支える教育環境の充実】では、学習者用端末の活用が進んでいる。内容についても資料作成やデジタルドリル、調べ学習、心の天気などさまざまな使い方を行うことができた。また、教職員に対してもデジタルツールの活用を進めたり、資料の共有化を図ったりすることで時間外勤務の縮減に努めてきた。子どもたちの読書についても、図書委員会による読み聞かせや「読書カード」の表彰など児童の興味を引き付ける工夫した実践を行った。。

中期目標については、以下のとおりである。

・令和4年度から7年度の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は<78%>であった。

不登校児童の人数は令和4年度から10人、8人、5人、2人と減っており、在籍比率は約、2.5%、2%、1.2%、0.5%となっている。

- ・4年間の小学校学力経年調査における平均正答率の標準化得点はR5 6年社会 R6 6年理科を以外のすべての学年、教科で<98>以上であった。さらにほとんどの年、学年、教科で標準化得点は100を超えていた。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合について、令和7年度末までの4年間の割合を平均して82.6%であった。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は72%であり、目標を下回った。
- ・令和7年度の授業日において、学習者用端末を使用した日数（ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）は100%である。
- ・令和7年度、教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合（基準2）《学校園における働き方改革推進プランより》を96.3%であった。（2月まで）。

# 最終評価

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した  
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【安全・安心な教育の推進】</b> ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を<78%>以上にする。 ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 子ども理解に努め、子どもから発信されるわずかな心の変化を子どもの表情・行動・態度から看取ることを教職員の共通理解とし、子どもの安全・安心な学校生活を最優先事項として取組を進める。	B
指標 ・学期に1回のいじめアンケートの実施や心の天気など、子どもから発信される心の変化をとらえ、いじめに発展しないように日頃から早期発見・早期指導に努める。また、「いじめとはどんなにひどいことなのか」や「どんな理由があってもいじめはいけないことだ」という意識をもてるように『いじめについて考える日』を活かしたり、常日頃から指導したりする。	
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】 家庭への電話や訪問などの機会を通して児童と学校とがつながる機会を適切に設けるようにすると共に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど専門家の協力も得ながら不登校児童の在籍比率を減少させるようにする。	A
指標 ・学期に1回以上スクリーニング会議をもち、支援を必要とする子どもの早期把握、適切な支援の早期開始につなげるようにする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<b>【年度目標】</b> ○「いじめは絶対にいけない」と考える児童の割合は、平均 85.3%と目標(78%)を大幅に上回ったものの、目標に達していない学年もあるため、今後も日常的に指導を継続していく必要がある。 ○不登校児童の減少(0.49へ減少)においては、十分な成果を上げることができた。 ・中期目標についても達成することができた。
<b>【取組内容①】</b> ・全教職員が共通理解をもって指導を徹底することができた。「いじめについて考える日」や道徳の授業、日常的な話し合いを通じて、「いじめはどんな理由があってもいけない」という意識をしっかりと児童に持たせることができた。 ・いじめアンケートや「心の天気」が全クラスで継続的に実施され、子どもの心の動きを定期的に把握できたことで、いじめや不登校に発展する前に未然に指導を行うことができた。 ・「心の天気」の評価基準を児童に明確に示したことで、児童との間に共通認識が生まれ、一時的な感情による極端な入力(雷や雨など)が減り、児童の真の心の変化が把握しやすくなった。

・トラブル発生時には、担任を中心とした聞き取りを迅速に行うことや、月1回の「児童理解」の時間が有効に機能し、問題の早期解決につながった。

【取組内容②】

・学期に1回以上のスクリーニング会議がしっかりと実施され、支援を必要とする児童の早期把握と適切な支援の早期開始に繋がった。全教職員で支援が必要な児童の状況や課題を共有・認識できる場として、非常に有効に機能した。

・スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）に対し、会議を通じて積極的に対象児童の情報共有を行い、専門家の協力を得ながら子どもたちの様子を見守る体制ができた。

・学校内での対応にとどまらず、必要に応じて「子ども相談センター」「区の子育て支援室」「子どもサポートネット」などの外部・関係機関とも密に連携し、充実した支援体制を考えることができ、不登校を未然に防ぐ対策がしっかりと機能している。

・不登校傾向の児童に対しては、日頃から家庭への連絡や訪問等を通じて保護者と密に連携を取り、学校と家庭が一体となったサポートに努めることができた。

次年度への改善点など

・いじめ防止の意識付けはできている一方で、日常の言葉遣いが気になる、あるいは暴言を吐いてしまう児童がいるため、継続的かつ丁寧な個別指導が求められる。

・児童の小さな変化を初期段階でケアするため、「心の天気」の毎朝の入力習慣をさらに定着させる。朝遅れがちな児童が未入力になるケースがあるので、担任からのこまめな声かけや働きかけを続けるようにする。

・SNSを使ったトラブルにつながるケースがある。ゲストティーチャーを招くなどの対応を行っているものの、まだ指導が計画的・体系的とは言えない。今後は、スマートフォンの使い方や他者とのオンラインでの関わり方について、より計画的な指導体制を構築していくことが必要である。

・ネット上での交友関係が広がる一方で、現実の対人関係に必要な「他者への気遣い（話し方や接し方）」が希薄になっている点が懸念される。PTAと協力して啓発・取り組みを進めていくという方向性も視野に入れ検討していく。

・今後は、基本的な「言葉遣い」の改善指導を継続しつつ、現代的な課題である「SNS・携帯電話を通じたトラブル」に対して、より計画的かつ踏み込んだ対応策を講じていくことが重要である。

# 最終評価

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を&lt;50%&gt;以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を&lt;75%&gt;以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>研究授業を通して、考えを深め、高め合う児童の交流の在り方について検証していく。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年6回の研究授業・研究討議会で児童の交流の在り方について検証したことをまとめ、共有することで、日々の授業で活かせるようにする。</li> <li>・校内児童アンケート「授業中、思ったことや意見を友だちと伝え合うことができます」に対して、肯定的に回答する児童の割合を&lt;80%&gt;以上にする。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【5 健やかな体の育成】</p> <p>児童が運動をしたり、体を動かしたりする遊びに取り組めるように、学校行事、たてわり班活動、児童会活動等の全教育活動を運営する。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内児童アンケート「健康に気をつけ、すすんで運動しています」に対して、肯定的に回答する児童の割合を&lt;90%&gt;以上にする。</li> </ul>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p><b>【年度目標】</b></p> <p>○高めの目標設定にもかかわらず、概ね目標を達成できた。</p> <p>○話し合い活動については、研究授業を通じて全学年で取り組んだことが功を奏し、算数だけでなく他の教科にも活かされ、良い影響があった。</p> <p>○運動・スポーツについては、「運動やスポーツが好き」という最も肯定的な回答の割合が目標（75%）にわずかに届きません（73.3%）でしたが、大阪市の平均（69.2%）ははるかに上回っている。また、にこにこ班活動やみんな遊びを通して、進んで運動し親しんでいる児童は多い。</p> <p>○中期目標についても達成することができた。</p> <p><b>【取組内容①】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内児童アンケートの「授業中、思ったことや意見を友だちと伝え合うことができますか」という質問に対し、肯定的な回答が84%となり目標を達成した。</li> <li>・年6回の研究授業・討議会が予定通り実施され、「適切なグループ構成」、「話型の提示」や「ICT機器の活用」により、効果的な交流活動を実践することができた。また、発言の機会が増えるよう指導を工夫することで、自分の意見をはっきり言える児童が増えた。</li> <li>・学級内に互いの考えを肯定的に受け止める雰囲気創造することで、意見を言いやすい・</li> </ul>

自己肯定感を高める授業につながり、積極的な交流を促した。

**【取組内容②】**

- ・校内児童アンケート「健康に気をつけ、すすんで運動しています」に対し、「90%」と目標を達成した。
- ・「にこにこ班活動」「みんな遊び」といった集団での遊びや、「なわとびタイム」「かけ足週間」などの具体的な取り組みが、児童が運動を楽しいと感じ、進んで体を動かすきっかけとして有効に機能した。その結果、寒い時期でも休み時間に運動場で元気に遊ぶ児童の姿が多く見られた。

次年度への改善点など

**【研究授業・話し合い活動等について】**

- ・低学年のうちから「話し合い活動の良さ」を実感させる必要があることや「考えを深める・広げる」という状態が具体的にどのような姿を指すのかを明確にし、学校内で「交流の在り方」を引き続き検討し、共有していく。
- ・交流が苦手な児童に対する個別指導や意図的な声掛け等について検証していく。
- ・より効果的な研究を進めるため、授業研究の回数や時期の検討をしていく。

**【運動推進に向けたアプローチの工夫】**

- ・「教室遊びが好きな児童」でも自発的に運動できるよう、体育の授業の工夫や休み時間の友だちとの関わり合いを通して、「運動・スポーツが楽しい」と思える学級・集団づくりについて検討していく。
- ・かけあしタイムやなわとびタイム、学校行事や縦わり班・児童会活動だけで運動時間を増やすのは難しい。そのため、「何か別の方法で運動する時間を増やす工夫」を考える必要がある。
- ・高い意欲を保ちつつ、課題となっている握力や柔軟性をピンポイントで補うために学校で取り組める運動(例：鉄棒やジャングルジムなどの活用)も検討していく。
- ・目標数値「90%」は、次年度の年度目標と学校の実態に合わせて検討し、調整する。

# 最終評価

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の50%以上にする。[ただし事務局が定める学校行事等ICT活用に適さない日数を除く]</p> <p>○時間外勤務時間が30時間以下の人数を毎月15名以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、まん画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を14%以下にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>ICTスキル向上のための研修会を企画し、実施する。 デジタル教材活用を推進するための環境を整備する。 非常時対応力の強化に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別学習や繰り返し学習としての「navima」等のデジタルツールを効果的に活用できるよう、年度内に1回以上、活用方法等を学ぶ研修会を実施する。</li> <li>・児童への連絡として「Teams」や「スクールライフノート」等を活用し、児童が毎日ICT機器を使用する環境を整え、使用率を高めるようにする。</li> <li>・調べたことを発表ノートにまとめグループで交流したり、クラス全体に発表したりできるように「SKYMENU Cloud」を活用していく。</li> <li>・デジタル指導書やデジタルツールをより活用しやすくするために、学習プラットフォームである「まなびのポータル」をさらに整備する。</li> <li>・学習者用端末を活用した朝学習を週2回以上実施する。</li> <li>・ICT機器を効果的に活用した算数科の授業について検証していく。</li> <li>・年度内に、「双方向オンライン学習」を1回以上実施する。</li> </ul>	B
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教員の時間外勤務縮減に向けて、日課表や時間割、行事の見直し等を行い、業務の効率化に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度変更した日課表等について検証していく。</li> <li>・デジタルツールを活用し会議資料をクラウドで共有する等、ペーパーレス化を進めるとともに、教員間や地域・保護者との情報共有を効率的に行うことができるようにしていく。</li> <li>・プール清掃を外部人材に委託するなど教員の負担を軽減するとともに、「ゆとりの日」を昨年度より多く設定する。</li> <li>・自己の時間外勤務時間を把握し、各人が効果的な働き方を目指すように努める。</li> <li>・行事ごとにPDCAサイクルのプロセスを確実に実施し、学校行事の頻度や内容について見直しを行う。</li> </ul>	B

<p>取組内容③【8 生涯学習の支援】 自ら生き生きと読書に親しむことをめざし、言語力、感性、創造力、表現力を育む読書習慣を形成できるよう、読書環境を整備・充実させる。</p> <hr/> <p>指標 ・週に1回、始業前に読書タイムを設定・実施するなど読書指導を教育課程に位置づける。 ・10月・11月に読書週間を設定し、読書に対する児童の関心・意欲をさらに高めるようにする。 ・「読書カード」の記録を学期ごとに表彰するなどして、読書意欲を持続させるようにする。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】 ○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が1月までで授業日の57.5%だった。 ○時間外勤務時間が30時間以下の人数は、毎月15名以上を達成し、12月までで平均19人以上だった。 ○小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、まん画や雑誌は除く)」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合が16.4%だった。 ・中期目標についてもおおむね達成できていた。</p> <p>【取組内容①】 ・学習活動の中で必要に応じて「SKYMENU Cloud」を活用した資料作成やデジタルドリルの練習問題、インターネットでの調べ学習、心の天気の入力などICT端末を利用することが当たり前になり、学校全体で活用が広がった。 ・多数の教諭がデジタル教科書やデジタルツールを毎日のように活用した。</p> <p>【取組内容②】 ・日課表など、本校のカリキュラムについて見直しを行うことができた。 ・「職朝連絡簿」やGoogleカレンダーの活用などで、ペーパーレス化を進めながら情報共有の効率化を図ることができた。 ・「ゆとりの日」を毎週設定できるように行事予定を見直し、各行事の振り返りも確実に行った。</p> <p>【取組内容③】 ・読書タイムや図書館開放、読書週間といった環境づくりに加え、「読書カード」の表彰や「推しの一冊」、図書委員会による紙芝居の読み聞かせなど、児童の興味を惹きつける工夫された実践が展開され、読書に対する関心・意欲がさらに高まった。</p>	
次年度への改善点など	
<p>○年度目標や各項目、設定数値の再検討を経て、子どもたちも教職員もよい効果を実感できる取り組みをさらに進めていくことが課題。</p> <p>【取組内容①】 ・新機種が入ったので、家庭への持ち帰りも含めて更にICTの利用をすすめる。</p> <p>【取組内容②】 ・4・5月の時間外勤務が多いので、行事の日程が集中しないようにすることや研究授業のあり方(回数や時期)を検討する。 ・社会見学や出前授業、研修会などを精選し、計画的でない行事については減らしていくようにする。 ・教育の質向上の観点より、教員が授業準備や児童生徒と向き合う時間を確保し、働きやすい環境を整えるための新しいカリキュラム&lt;通知表の発行や個人懇談会の実施回数等について&gt;を提案していく。</p>	

【取組内容③】

- ・学校のみならず、家庭でも子どもたちがすすんで読書をする習慣が身につくような方策が講じられればなおよい。
- ・読書を「まったくしない」児童の割合を減らすためにどうするかを考え、新たな取り組みが必要。(朝の「読書タイム」や課題後の「自由読書」の時間も含めて答えているのか、アンケート時に確認するなど)

## 令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立太子橋小学校 学校協議会

### 1 総括についての評価

- 本年度の学校自己評価は概ね妥当である。
- ・学校アンケート集計結果や学校の取り組みの説明（最終評価書等）から、全教職員が課題を共有して取り組みを進めていることを評価している。
- ・子ども一人一人の個性を大切にしながら、仲間と共に協力して伸びていこうとする子どもたちの意欲を育てていることを評価している。

### 2 年度目標ごとの評価

#### 【安全・安心な教育の推進】

- ① 子ども理解に努め、子どもから発信されるわずかな心の変化を子どもの表情・行動・態度から看取することを教職員の共通理解とし、子どもの安全・安心な学校生活を最優先事項として取組をすすめる。
- 「心の天気」や「いじめアンケート」を有効活用し、児童の実態把握に努めるとともに、いじめの起こりにくい集団づくりに取り組んでいる点が評価できる。今後も「心の天気」の活用を進めてほしい。
- ② 家庭への電話や訪問などの機会を通して児童と学校とがつながる機会を適切に設けるようにすると共に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど専門家の協力も得ながら不登校児童の在籍比率を減少させるようにする。
- スクリーニング会議を学期に一回以上行い、児童の実態把握に努めるとともに、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、こどもサポートネットなどの専門機関と連携し、支援を必要とする児童への適切な支援を行っているところが評価できる。

#### 【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- ① 研究授業を通して、考えを深め、高めあう児童の交流の在り方について検証していく。
- 年間6回の研究授業・討議会が計画通り行われ、その中で「グループの構成」や「話型」「ICT機器の活用」などテーマをもって交流の在り方の研究を進めたところが評価できる。
- ② 児童が運動をしたり、体を動かしたりする遊びに取り組めるように、学校行事、たてわり班活動、児童会活動等の全教育活動を運営する。
- 「にこにこ班活動」「みんな遊び」といった集団での遊びや「なわとびタイム」「かけ足週間」などの設定により、子どもたちが楽しんで体を動かすような習慣がついていることを評価する。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

- ICTスキル向上のための研修会を企画し、実施する。  
デジタル教材活用を推進するための環境を整備する。  
非常時対応力の強化に取り組む。
- 調べ学習や資料作成、デジタルドリル、心の天気入力など教員のスキルの向上もあいまって目的に応じてICT機器を使った学習活動が行われるようになってきていることを評価する。  
非常時対応力については今後も伸ばして行ってほしい。

① 教員の時間外勤務縮減に向けて日課表や時間割、行事等の見直し等を行い、業務の効率化に取り組む。
○ ペーパーレス化や日課表の見直しなどを行い、業務の効率化を進めているところを評価する。今後も保護者のニーズも踏まえながら、業務の効率化を進めてほしい。
② 自ら生き生きと読書に親しむことをめざし、言語力、感性、創造力、表現力を育む読書習慣を形成できるよう、読書環境を整備・充実させる。
○ 読書タイムや図書開放、読書週間などの取り組みに加えて、「読書カードの表彰や「押しの一冊」図書委員会による紙芝居など今までの取り組みをさらに進めているところを評価する。家庭と連携し、読書をする習慣が身につくような方策が講じられればよい。

### 3 今後の学校運営についての意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員でさまざまな工夫を行い、子どもたちが笑顔で安心して学校生活を楽しむことができるような学校づくりを第一に考え、教育活動を進めた学校の姿勢は評価ができる。</li> <li>・「運営に関する評価」の共通理解のもと、教職員が子どもたちのために一生懸命に取り組んでいることが改めてよく伝わってきた。欠席者が少なく、保健室の来室もほとんどない状況であるとあるとの報告を聞き、子どもたちが安心して、学校生活を楽しんでいることが分かった。</li> </ul> <p>これからも子ども一人一人の持ち味を大切に、単なる点数による学力ではなく、互いに協力してよりよい社会をつくっていくことができるような「生きる力」を育む教育を推進してもらいたい。教職員の教育に対する姿勢を信頼し、保護者・地域は後方から支援していきたい。</p>
--